

令和**5**年度

講評と対策

入学試験問題

四天王寺高等学校

国語

問題内容

- 一『南風吹く』
森谷明子(光文社)
- 二『「人それぞれ」がさみしい「やさしく冷たい」人間関係を考える』
石田光規(ちくまプリマー新書)
- 三『古本説話集』

配点

41点

出題の意図

俳句の解釈について対話を重ねるなかで、自分の抱えていた思いに気づく高校生と、仲間との関係性の変化を読み取る。

37点

人に対して一見優しく見える「人それぞれ」という態度の、生じる原因と問題点を読み取る。

22点

清水寺に二千度のお参りをした御利益を、賭事のかたに授受し合った二人の侍の、態度とその後の人生の違いを読み取る。

各問題講評

【書き取り】

文字を見られる問題であるのに、画数の判別すら難しい難な答案が見られる。
二の「指南」(正答率20%)は語源となる古代中国の指南車を知らないという意味が取れないため、読みから漢字を導き出すのは難しかったかもしれないが、「埋没」(正答率40%)は漢字の意味・音からある程度は推測できる熟語であって、書けてほしいところ。

【ことばの意味】

- 一問二 「象徴」(正答率50%)は、「ハトは平和の象徴」などという例文から考えてみるとよい。「根負け」(正答率20%)は、文脈に合う選択肢Aの誤答が目立ったが、語句の本来の意味を無視してはならない。「いっぱし」(正答率65%)は、本来には一人前ではない未熟さを皮肉るのが一般的な用法であることに注意する。
- 二問八 「横行」(正答率10%)は、語のマイナスのニュアンスを汲み取らないEの誤答が目立った。
- 二問十 「気の置けない」(正答率60%)は、「置けない」という不可能表現にとらわれて、誤った意味で覚えているか注意。

【一】小説

- 問三 登場人物が多く、それぞれの解釈とそれに対する恵一の思いを把握するのは手間取ったかもしれないが、恵一が後の部分で、「京をちらりと見やうて、京の解釈に一定の共感を示しながらも、「なの」と反論している箇所から、傍線部において恵一が京の解釈に対してどう思ったかを理解する。(正答率43%)
- 問四 傍線部を含む恵一の発言から、「母」は「舟」と同様、頼りになりそうでならないものだということが、傍線部「おれの書きたかったこと」だと読み取るべき問題。(正答率45%)
- 問五 傍線部直前の河野の発言内容と、それに対する恵一的心情変化、そしてそれによる表情変化であると読み取ることが必要。登場人物の変化には、何かのきっかけが必要であり、一般的にそれはその変化よりも前に書かれているものだが、受験生の答案は傍線部直後の発言中の表現を用いた誤答が多かった。修飾・被修飾を明示する文章構成が未熟で、本文が意図する内容とは全く異なるものを「同じ」と読めてしまう答案も多い。読書量を増やし、語彙力や口語文法力の向上が必要である。(正答率30%)
- 問六 「は」「に」「に」等の助詞(てにをは)から、作者である恵一の心理を読み取る問題。「〇〇は」という表現は主語と言われることが、発言者の話題・関心の中心を明示する。文法上の分類だけでなく、表現としての性質も理解する。(正答率75%)
- 問七 「母」と「舟」が似ている点は本文中に二点挙げられており、直前に言われる「字形が似ている」という類似点を挙げた誤答が多かったが、これは「後づけの理屈」で、傍線部「そういう」の指示内容は、その前に述べられているもう一つの類似点、自分が「しがみついている」ものであるということ、つまり本文全体を見れば、「頼れないとわかっているのに頼ってしまうもの、3ページの表現を用いれば「安心感も不安感もある」点と言える。(正答率25%)
- 問八 恵一が「鮎」という川魚を季語に用いながら、海をイメージして句を作った理由を問う。2ページで航太が恵一の句を解釈している通り、進路のことで対立する(リード文)漁師の父に対するコンプレックスに引きずられたのである。(正答率20%)
- 問九 対話を重ねた末に、恵一が納得し、メンバーの望みが叶う。登場人物たちの緊張した関係性が変化したことを読み取る。A「恵一が冗談を言った」の誤答が目立ったが、恵一の提示した条件が単なる「冗談」とする根拠はどこにもない。(正答率50%)
- 問十 海が苦手な恵一にとって、コンプレックスの対象であるうえに進路でも対立する漁師の父親は反発の対象であることは簡単に読み取れるが、母親に対しては、問七で見た通り「安心感も不安感もある」と思っていることを読み取るのは難しかったか、その母親に対する思いの説明部分が誤っているAの誤答が目立った。(正答率20%)
- 問十一 登場人物が披露したそれぞれの鑑賞を「予想外だった」と言う恵一の発言から、登場人物達の考える俳句の性質を読み取る。(正答率80%)

【二】評論

- 問二 傍線部「このような」の指示内容を問う問題。(正答率98%)
- 問三 生活維持の必要性という「接着剤」が弱まり、替わりに大量の「感情」を注ぎ込むことの説明をする問題。設問文の「個人の感情は変わりやすく」をヒントに、本文後述の「個人の感情は日によって変わることもあります」をさがしだし、続く「つまり、人と無理に付き合わなくても良い」つながりは、ふとしたことで解消されてしまう不安定なつながりとも言えるのです。から傍線部の「つながり」の説明部分をAの解答として抜き出す。Bは、不安定だからこそ維持するための必要相互努力を具体化した部分とをさがす。傍線部「感情」の説明箇所を抜き出さなければならぬ。(正答率40%)
- 問四 生活維持という目的が失せ、個人の好み・判断でつながりを維持させるか否かを選択できるようになったという、現代社会の具体的な状況を選択する問題。(正答率75%)
- 問五 「人間関係を円滑に進めていく行動様式がはたして見えなまま、相手の心理に

配慮しつつ、コミュニケーションを行う」という「厄介な状況に対処する」とことで、「友人といえるかえて疲れてしまう」という裏腹な結果に陥るという、本文全体の趣旨を読み取る。「対立を表面化させず、沈黙化する」等の誤答は、傍線部のための手段である「人それぞれ」を前提としたコミュニケーションの説明であるし、この部分だけ抜き出して主語に含まれる「人それぞれ」がなければ意味を成さない内容。(正答率8%)

- 問六 「優しさ」と「呪文」を組み合わせた逆説的表現に注意する。「呪文」という比喩表現に込められた意味を理解し、前問五と同様、良かれと思っていることが、裏腹な結果を招いているという本文の趣旨を読み取る。(正答率50%)
- 問七 本文前述部分「人びとの行為や主張を「人それぞれ」と受け止める社会には、その言葉が発された瞬間から、対話の機会をささげるはたらきがある」から考える。(正答率40%)
- 問九 本文前述の、青年期に重要な友人関係において、「お互いの内面をさらけ出し、率直に意見をぶつけ合うようなつき合い」をすることで、傍線部「対立や批判をも含んだ強靱な関係や、共感をともなう関係をつくる」ことができる。(正答率60%)

【三】古文

例年古文は中学校で履修する範囲から出題し、古典文法や古語の特別な知識を問う出題はないのだが、今年度は登場人物が多くなり、主語が「まゝ」で二択であったため、注釈も少なかった。その結果、その二択の主語を、表現が異なる同一人物と分かつ取り違えたと思われる答案が目立った。主語の明示がなく、一文のうちに何度も主語が変わる古文の文章を読み慣れおく必要がある。

- 問一 古文の歴史的仮名遣いに関する問題。(正答率95%)
- 問二 「負け侍」と「打ち敵の侍」を逆に捉えている誤答が目立った。二人のやり取りを逆に読み取ってしまったか。(正答率60%)
- 問三 ④「渡さば得ん」の「ん」を打消で捉えてエを選ぶ誤答が目立ったが、「ば」は現在順接で用いることを考えて正答を導き出したい。(正答率80%)
- 問四 問二と同じく、人物同士のやり取りを逆に捉え、それぞれの傍線部の主語を間違えたと思われる。(正答率20%)
- 問五 設問にある十字指定を見落とすことで「こと」を省略、また抜き出し指定を見落として現代語訳といった誤答はあったが、おおむねよくできていた。(正答率80%)
- 問六 本問も対比的に描かれている登場人物の把握ができず、主語を逆に読んでしまった受験生が多いと思われる問題。また、傍線部は、御利益を信じて、神仏に対して誠実な振る舞いをしたことを指すので、解答は三日間精進齋したことを言わねばならないのだが、文中にある「精進」の意味が分からなかったか、解答に活かせていない。(正答率30%)

次年度入試 アドバイス

四天王寺高校の入試問題では、本文の長い文章が出題される傾向があるため、問題演習をするときに記述問題もきちんと書いて時間内に解答する力をつけてください。本文が長いということは「具体例→筆者の主張(特に一般的に言われていることとは反対のこと)」「登場人物の心情の変化」を、多くの情報を読みながら掴み取る力が要求されます。傍線部の近くだけ見て「とりあえず解答する」のではなく、傍線部のことばの意味を突き詰めて考え、設問で要求されていることは何か(心情を答えるのか理由を答えるのか、性質を表す「一時的」のような物の名を表す名詞なのか等)に注意して、設問をヒンに筆者の「言いたいこと(主張)」を読み取り、時間をはかって解答する練習を積み重ねてください。中学生の話し言葉では使わない抽象的な概念を表すことばを用いた文章も出題されるので、新聞のコラムを読んで、現代社会の問題について考えたり、教科書で習った作家の他の作品を読んだりして、話し言葉以外の文章語や少し言い回しに慣れてください。文章を読むスピードは、読書量に関係します。いろいろな種類の文章に親しみ、辞書を用いて語彙を豊かにしてください。

古文では中学校の教科書で習わない古典文法の知識は出題されません。教科書に掲載されている古文を繰り返し音読することで、古典の文章に慣れてください。音読は最も有効な古典学習法です。

数 学

問題内容

配点
(100点中満点)

出題の意図

1. 計算問題	20点	基本事項(2次関数の変域・式の計算・因数分解)の確認。
2. 小問集合	18点	基本事項(平方根・データの分析)の求値。
3. 2次関数と平面図形	15点	2次関数のグラフから三角形の面積・折れ線の長さの最小値を求める。
4. 平面図形	16点	相似と円の性質を用いた求値問題。
5. 確率	16点	2つのさいころの目が条件を満たす確率を求める。
6. 空間図形	15点	立方体を3点を通る平面で切断してできる立体を把握し、三平方の定理と相似を用いて面積・体積を求める。

各問題講評

全体として、約60%の出来具合でした。

1. 80%の正答率でよくできていましたが、全問完答したい問題です。(1)の正答率は70%で、誤答の多くは等号の付け間違いです。端が入るかどうかグラフで確認しましょう。(2)の正答率は50%で比が逆になっている誤答が多かったです。(3)(4)はたいへんよくできていました。

2. 65%の正答率でした。

[1]正答率80%とよくできていました。

[2]新課程で中学範囲となった四分位数の基本問題です。正答率50%でした。前半の基本用語はできていましたが、㊦の四分位範囲、㊦の点数の推理の正答率は30%にとどまりました。四分位範囲の計算方法を確認し、なぜ中央値だけが増えたのかを考えましょう。

3. 2次関数のグラフと図形の融合問題です。正答率は(1)80%(2)40%(3)30%で、全体として50%でした。(1)はよくできていました。(2)は、 $AP:CP=4:3$ から点Cの x 座標、変化の割合を用いて直線ACの傾き、点Pの y 座標の順に求めていきます。(3)の点Pは(2)の点Pとは違う点であることに注意しましょう。点Bを y 軸対称移動した点B'をとって、線分AB'の長さを求めます。

4. 相似と円の性質を用いた求値問題です。正答率は(1)50%(2)30%(3)20%で、全体として40%でした。(1)の相似な三角形が見付けられなかったり対応順を間違ったりすると(2)(3)は全滅してしまいます。円周角の定理と二等辺三角形の底角を用いて、丁寧に探しましょう。

5. 2個のさいころの目の確率です。正答率は(1)80%(2)70%(3)50%で、全体として65%です。よくできていました。さいころの目の6×6の表を書いて適する場合をチェックしましょう。

6. 立方体の切断と面積・体積の求値問題です。正答率は(1)60%(2)30%(3)5%で、全体として35%です。切り口の形がわからないようです。昨年度も書きましたがまずケーキや羊羹を実際に切ってみる体験から始めてみましょう。その上で、空間図形において、三平方の定理で線分の長さを求めたり、相似比と面積比・体積比の関係を用いたりすることで、計算を効率よく行いましょう。

次年度入試 アドバイス

例年、中学1年から3年までの全分野より偏りなく出題し、「正確な計算力を身につけているか、基礎事項を理解しているか、題意を読み取り論理的に考えていくことができるか。」などをみる問題を作成しています。正確な計算力と柔軟な思考力が試されるので、すばやく計算する練習とあきらめずじっくりと考える練習を2つの柱として準備をしてください。

三角形の合同、相似、面積、文章から連立方程式や2次方程式を立てて解く問題、立体図形、2乗に比例する関数、場合の数と確率、円周角の定理、三平方の定理などは比較的良好に出題されているので、特に力を入れて勉強しておきましょう。

ただし、難問を練習する必要はなく、標準問題を中心にどのような基本的事項が使われているのかを確かめながら勉強しておくことが最も有効な対策です。ケアレスミスにも注意しましょう。「部分は全体より小さい」「長さ・面積・体積は正の数」ということを意識し、「文字は正しいか」「符号は正しいか」「累乗は正しいか」「比の左右は合っているか」「最後まで因数分解できているか」「聞かれたことに答えたか」に気をつけてください。

最後に、過去の問題を研究する際には、時間配分に十分注意し、配点はどの問題もほぼ均等なので、まず計算問題と各大問の(1)、(2)を確実に正解していきましょう。入試当日を想定して時間を測って演習しましょう。

英語

問題内容

配点

出題の意図

I 長文(物語)	24点	英文読解と内容把握力をみる
II 長文(エッセイ)	22点	英文読解と内容把握力をみる
III 会話文	20点	対話形式の文の読解力をみる
IV 英作文	12点	英文の構成力をみる
V 2文同意	8点	単語力と表現力をみる
VI 整序	6点	英文の構成力をみる
VII 語彙	4点	単語力と表現力をみる
VIII 発音・アクセント	4点	音声の定着度をみる

各問題講評

[I] ある女性が幼い頃、家族でディズニーランドに行った思い出を記した物語。問1はよく出来ていた。問2は文脈に適した適切な動詞を選択できていないものが多かった。また、choosedやthrewedといった活用の間違いも見られた。問3は「やっとなと父との時間を過ごせそうだ」とすべき所を、finallyの意味を取り違え「父との最後の旅行に行ける」としている誤答が見られた。問4は和訳問題であるが、want O to do, try to do, get helpの訳が不十分なものが多かった。andによる並列関係もしっかりと見抜いて欲しい。問5はよく出来ていた。問題で与えられている語句はa manだが、aとmanの間にbigを入れてしまっている誤答が目立った。問6と7はよく出来ていた。問8は「オ」の代わりに「キ」の誤答が多かった。「オ」は第4段最終文(My father had...)に一致しないので、正答となる。全体としては70%程度の出来であった。

[II] 効き目のない薬を、患者自身が「効き目がある」と思い込むことで、病気の症状が改善する「プラシーボ効果」に関する文章。問1ではhow wellという語順が特に難しかったようである。問2は、時制の間違いが目立った。問4では、特にウ→アという順番に誤りが多かった。アのHowever「しかしながら」という語がヒントになるだけでなく、ウのHeとは誰か、アのa big problemとはどのような問題かを考えれば、自ずと順番は決まってくる。普段から文章と文章のつながりを考えながら読む姿勢を大切にしたい。問8は正答率が低く、空欄のままの解答も見られた。受験生はitやdid, thisといった語が何を表しているのか、正確に読み取る訓練を積んで欲しい。全体としては50%程度の出来であった。

[III] 前年までと形式を変え、会話文を二題出題した。昨年と比べて難しかった様子で、全体としては65%程度の出来であった。

[IV] 状況を与えられた中での自由英作文。解答時間が限られているにもかかわらず、④では「おすそ分けをする」「堆肥にする」と

いった自分自身のアイデアを英語で上手に表現していた。全体としては60%程度の出来であった。

[V] 2文が同意になるように空所を補充する問題。全体としては70%程度の出来であった。

[VI] 整序問題。1は「命令文、and ~」のコンマの位置を間違えている解答があった。2では間接疑問文を正しく組み立てられていないものが多かった。1と2に共通して言えることだが、基本的な例文をしっかりと覚えて欲しい。文法を理解した上で教科書の暗唱に努めるのが有効であろう。3はleave schoolという誤答が多かった。forの位置に悩んだ様子だが、問題文の「学校に向けて」というイメージからfor schoolと書けると良い。全体としては55%程度の出来であった。

[VII] 異綴同音意義語問題。

[VIII] 発音問題。合わせて70%程度の正答率であった。

次年度入試 アドバイス

教科書の単語や文法、例文を確実に覚えた上で多くの英文を読みましょう。今年の大問IIの長文は「プラシーボ効果」がテーマでした。読解においては、テーマについての知識があると、その英文が一層読みやすくなります。普段からの読書はもちろん、新聞等に掲載されている様々な話題に関心を持ち、知識を増やしましょう。英語の勉強において音読はもちろん大切ですが、覚えた文章や単語を書いてみて、つづりやコンマの位置が間違っていないかもしっかりと確認をしましょう。

理科

問題内容

配点

出題の意図

1 気象と天体	8点	身の回りの気象や天体現象を、時計回り・反時計回りの観点から見た問題とし、知識を用いて思考する力を問うた。
2 地殻変動	17点	地殻変動によってできた観光地を題材にして、地層の形成・地震・プレートの動きについて、知識と考察を総合的に問うた。
3 植物の体のつくりと生殖	14点	身近な植物の観察を通し、体のつくりの共通点や相違点、生殖方法の利点を理解しているかを問うた。
4 力と速度、エネルギー	13点	与えられた関係式を用い、問題文から必要な情報を読み取り計算する力と、日常の現象の考察を問うた。
5 電流と力のつり合い	12点	電流が磁場から受ける力の大きさが、電流の大きさに比例することと3力の力のつり合いが理解できているかを問うた。
6 物質の性質と化学反応	25点	与えられた情報を整理し、自身のもつ化学的知識（水溶液の性質、物質の質量、電気分解、酸化還元）と合わせて考える力を測る。
7 動物の体のつくりと遺伝	11点	鳥類のトキを題材にして、動物の分類と基本的な体のつくりとはたらし、遺伝のしくみを理解しているかを問うた。

各問題講評

- 知識を問う問題はよくできていたが、知識を用いて思考し、答えを導くことができていなかった。丸暗記の学習から脱却して、暗記したことをもとに、条件が変わるとどのように変化するのか等、日頃から主体的に思考してほしい。
- 「海洋プレート」といえば「太平洋プレート」、「地震の要因」といえば「プレートの衝突によるひずみ」のように、深く理解することなく、単に1対1の対応で暗記しているような誤答が多く見られた。単語に飛びつくのではなく、問題文の情報をもとに、何を問われているのかを正しくよみとり、適した解答を導けるようになってほしい。
- 基本的な知識を問うており、正答率は高かった。リード文で、観察を通して自ら考えていく道筋の例を示したように、学習を進める際には、学んだ知識の例が日常生活の中にないか探したり、実際に調べて確かめたりして、理解を深めるように努めてほしい。
- 時速の計算問題と等速直線運動を答える問題は比較的良好にできていたが、計算では桁を間違えるケアレスミスが散見された。リード文の内容を理解し、与えられた式で計算を行うのは難しかったようだ。
- 基本的な問題は比較的良好にできていた。ばね2本で支えると、のびが半分になることを忘れていた答えが散見された。(4)は金属棒の重さが変わらないことから考えて、3力のつり合いより電流が磁界から受ける水平方向の力が何倍になるかを問う問題である。
- 物質の検出、電気分解など、知識を問う問題はよくできていたが、与えられた数値や情報を適切に使用できていなかった。実験における注意点や、操作の意図の理解が乏しかった。また、与えられた数値を、質量保存の法則、定比例の法則と結びつけて計算できていなかった。与えられた情報に対して、学習した化学的知識を適切に活用できるよう、履修内容を深くまで理解する意識をもって学習してほしい。
- 全体的によく出来ており、知識だけでなく、未知の内容を誘導に従って解く問題(5)の正答率も高く、しっかり勉強していることが窺えた。正答

率が低かった問題として、正確な知識を必要としたもの(2)と、長いリード文を読んで内容の正誤を判断するもの(4)があげられる。一問一答の勉強で終わらず、理解に裏付けられた知識を身につけることや、長い文章を読んで内容を適確に把握できるように読解力を高めることを意識して勉強して欲しい。

次年度入試 アドバイス

以下に理科の対策を列挙しておくので、しっかり準備してください。

- ☆中学の理科で学ぶ重要な「用語」、「単位」などを正確に理解すること。特に「用語」は漢字で答えることを指定される場合が多い。記述では用語を的確に使い、誤字脱字に注意する。
- ☆実験や観察に関する問いが多いので、教科書で扱われている実験については、実験操作の意味を理解し、データの処理、グラフの作成や読み取り、計算力をつける学習を大切にすること。
- ☆化学式や化学反応式は正確にかけよう練習を積み重ねてほしい。
- ☆考察する問題では、必ずそのヒントが問題中に含まれている。問題文をしっかり読み取るトレーニングをする必要がある。
- ☆実験や観察には積極的に参加すること。生活の中で体験する身近な現象などに、日頃から関心をもつよう心がけることも大切である。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 地理分野 (北アメリカの地誌)	15点	アメリカ合衆国およびその周辺地域についての地理的事象を出題した。
2 地理分野 (日本の人口問題)	15点	都市問題・過疎問題も含めて、日本の人口をテーマに様々な問題を出題した。
3 歴史分野 (日本史分野)	10点	今年没後 30 年を迎える近衛秀麿を中心とするリード文から、近現代の政治・社会経済について出題した。
4 歴史分野 (日本史分野)	10点	京都に関する4つの写真から、古代から近代までの政治・外交・文化について出題した。
5 歴史分野 (世界史分野通史)	10点	ここ数年の世界情勢を振り返り、特に、紛争や戦争などについて出題した。
6 歴史分野 (世界史分野通史)	10点	北極を中心とした現在の地図にさし示した世界の国々の歴史について出題した。
7 公民分野 (現代社会、政治)	10点	現代社会や政治の特徴について出題した。
8 公民分野 (時事問題)	20点	2022年の出来事に関する時事に関して出題した。

各問題講評(具体的に)

- 基礎的な知識を問う問題は正答する人が多いが、問1のグラフから気候を判別したり、問4～問6など図・表から判断しなければならない問題のように、暗記だけでは解けない問題は正答率が大きく下がった印象がある。
- テーマ的には色々な要素を持つ事項を問うたが、基礎的な内容が多かったため比較的正確率が高く、内容を理解している人が多かった。しかし、データから特色を読み取る問題については正確率が多少下がった印象がある。
- 問3と問5の正確率が低かった。問3は近代の社会経済史、問5は戦後史で、受験生が苦手とする分野であると考えられるが、高校1年生では近現代史中心の「歴史総合」を学習するので、しっかりと学んでおいてほしい。
- 問5の正確率が低かったのは想定外であった。資料の説明文から、教科書で学習した図版を想起して答える必要があったが、できて欲しい問題であった。
- 問4の正確率が低かった。中世全般のテーマ史、今回は宗教であったが、このような題材での視点を持って世界史分野の勉強を掘り下げてもらいたい。
- 問1の正確率が低かった。中世から近世・近代にかけて、比較的時代間隔のある事象を比較する間に受験生は不慣れかもしれない。
- 問2は、正確率が高かったが、他の4問は、例年に比べて正確率がやや低かった。
- 例年に比べて世界の出来事の出題が多かったこともあり、問2を除き正確率がやや低かった。特に、残り時間が少なくなったためかわからないが、問6以降の正確率が特に低かった。

次年度入試 アドバイス

1・2【地理分野】

世界地理・日本地理ともに、各地域ごとの特色を資料やデータから読み取って答えられるようにしてください。地名に関しては、地図帳などを用いて名前だけでなく場所を把握できるようになって下さい。その上で、その場所の特色、その特色を作り出した背景がなにかを理解して下さい。

3・4【歴史分野 日本史】

歴史はいわゆる「暗記科目」ではありません。歴史用語の単純な暗記ではなく、教科書をしっかりと読み込んで、時代の特徴や出来事の因果関係などを理解することに努めてください。学習するときには、図版や史料・グラフにも必ず目を通すようにしてください。また、過去問にも必ず取り組んでください。

5・6【歴史分野 世界史】

①教科書をしっかりと熟読し、時代(年代)と地域(国)の特徴を把握・理解することに努めましょう。

②教科書や副教材に掲載されている年表・写真・史料・グラフには必ず目を通しましょう。

③①、②を念頭にしっかりと学習し、おおよその歴史の流れを直線的のみならず、広い視野で全体を把握するように努めましょう。歴史学習は、コツコツ積み重ねていくことが肝心です。

7・8【公民分野】

現代社会についての分野、政治的分野、経済的分野も教科書の本文だけでなく、注釈・欄外・表・グラフ等も含めてしっかり学習しておいて下さい。時事問題に関しては普段からテレビのニュースや新聞などに関心を持って、学習を深めて欲しい。その際、日本と世界の両方の出来事に関心を持って欲しい。

【全般】

地理分野・歴史分野・公民分野を全体的にバランス良く学習することが求められる。普段から教科書だけでなく、地図帳・資料集・新聞なども活用して、幅広い知識を身につけるような学習をして欲しい。